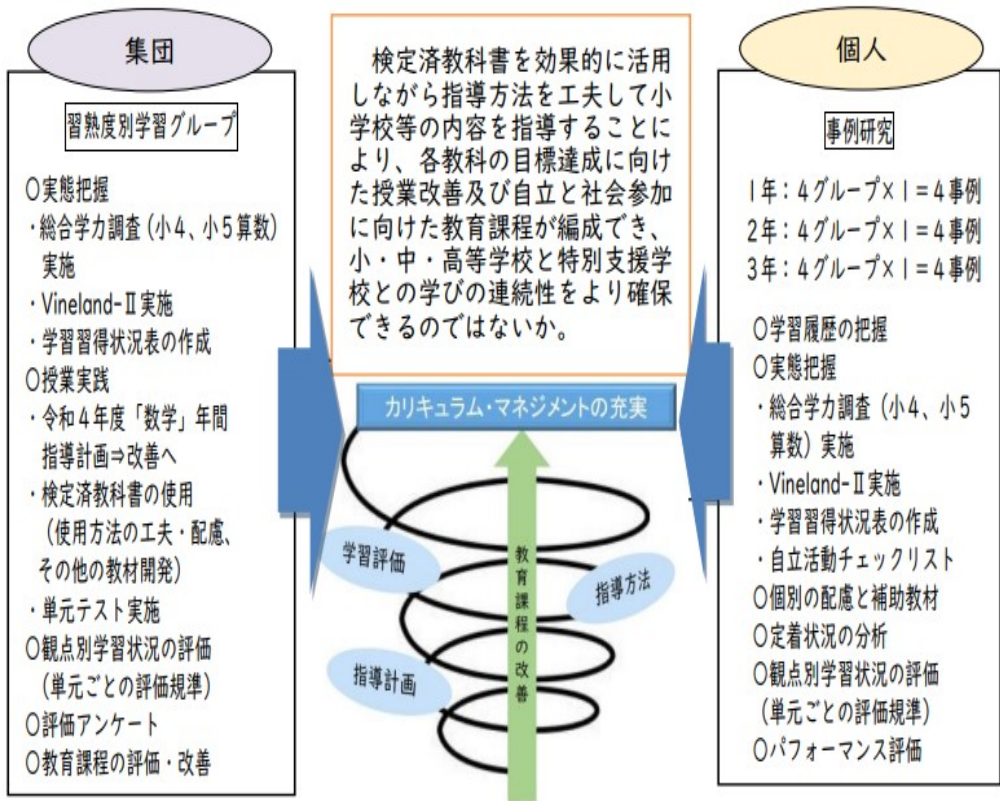


教科の目標・内容と「学びの連続性」を踏まえた知的障害特別支援学校における効果的な指導 ～“つながる”学び、“つながる”教育課程～

中央教育審議会初等中等教育分科会の「特別支援教育部会における審議の取りまとめ」（H28. 8）で、「学校種別にかかわらず、各教科の目標・内容を一本化する可能性」の検討が求められました。この小学校、中学校又は高等学校と特別支援学校との間の学びの連続性の確保の観点を踏まえ、本研究では特別支援学校（知的障害）において、小学校等における各教科等を基にした教育課程の編成や、指導方法及び学習評価の在り方について研究します。具体的には、高等部「数学」において小学校の検定済教科書を活用し、生徒の実態等に応じた教材を使用した授業実践を重ね、観点別学習状況の評価により学びの深まりを探ります。



研究概要



第二年次（令和4年度）の取組			
月	事例研究（＝「個」の視点）	授業実践（＝「集団」の視点）	その他
4	1年生 2・3年生 ○学習履歴の把握 ○学習習得状況表作成 ○自立活動チェックリスト及びシエアシート記入	○学習習得状況表 ○年間指導計画に基づく授業 ○検定済教科書の活用 ○教材開発 ○単元末テスト ○観点別学習状況評価 ○生徒の自己評価	教育課程検討委員会 課題研究 ①他教科等との関連 ②生活・余暇との関連 ③卒業生調査
5			
6	○個別配慮と補助教材 ○定着状況の分析 ○観点別学習状況評価 ○パフォーマンス評価 ○生徒の自己評価	3年「数学」研究授業・授業研究会 	心理検査（VinelandⅡ）
7	○個別配慮と補助教材 ○定着状況の分析 ○観点別学習状況評価 ○パフォーマンス評価 ○生徒の自己評価		総合学力調査
8			
9		1年「数学」研究授業・授業研究会	
10			
11	ポスター発表（11/22）	公開授業研究会（11/22）	
12	まとめ（研究紀要）	まとめ（研究紀要）	評価アンケート（生徒・保護者・職員） まとめ（研究紀要）
1			
2			
3			